





令和5年 **2**月の**思いやり**通信

目次

- (1)  過去8年「最も暖かい」 温暖化ガス濃度最高に
- (2)  省エネ性能 表示ルール 国交省整備へ
- (3)  火力発電でCO2「ゼロ」 アンモニア活用
- (4)  屋根で発電 高値買い取り 企業の工場や倉庫

(1) 過去8年「最も暖かい」 温暖化ガス濃度最高に パリ協定基準「1.5度」迫る

*欧州連合（EU）のコペルニクス気候変動サービス（C3S）は、過去8年間は1991~2020年の平均を0.3度上回り、産業革命期の1850~1900年に比べて約1.2度高かったとの分析を示しました。

*2022年単年では、過去5番目に暖かい年でした。

*これまでに最も暑かったのは2016年。

*2020年、2019年、2017年が続き、ここ最近に集中しています。

*大気中の温暖化ガスは過去最高を記録。

*CO2は200万年ぶり、メタンは80万年ぶりの高濃度。

*パリ協定は産業革命前からの気温上昇を2度未満に抑え、1.5度以内とする目標。

*気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、1.5度を超えれば異常気象などのリスクが劇的に高まると指摘します。

（2023年1月13日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(2) 省エネ性能 表示ルール 国交省整備へ

住宅・オフィス巡り

*国土交通省は、住宅や賃貸オフィスの省エネルギー性能の表示に向けたルールを整備します。

*契約時の資料や広告にエネルギー消費や断熱の性能評価に関する情報を明示するよう不動産事業者に求めます。

*2022年に成立した改正建築物省エネ法は、新築住宅などの断熱施工や省エネ性能の表示を義務付けました。

（2023年1月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(3) 火力発電でCO2「ゼロ」 アンモニア活用

I H I ・ G E 開発へ

- * I H I とゼネラル・エレクトリック（G E）が、二酸化炭素（CO₂）を燃焼時に出さないアンモニアを燃料に発電するガスタービン開発で提携。
- * 火力発電所が多く代替需要が大きいアジアを開拓します。
- * 天然ガスからの燃料切り替えを担います。
- * 天然ガス由来のアンモニアを燃やした発電コストは石炭火力の2倍以上。
- * CO₂を抑える再生エネ由来アンモニアは、製造費が化石燃料由来の数倍になるとの調べも。

(2023年1月18日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(4) 屋根で発電 高値買い取り 企業の工場や倉庫

経産省、太陽光の設置促す

- * 経済産業省は、企業が工場や倉庫の屋根に置いた太陽光パネルによる電気を高く買い取る制度を2024年度から始めます。
- * 固定価格買い取り制度（F I T）で、平地の太陽光より2~3割ほど高くする見通し。
- * 出力10キロワット以上の事業用の太陽光発電が対象。12円程度に設定する見込み。
- * 日本は平地面積あたりの太陽光導入量は、欧米より多くなります。
- * F I Tの原資は、家庭や企業が電気代に上乗せして支払う賦課金で賄います。

☆固定価格買い取り制度 震災後 再生エネ後押し

- * 再生可能エネルギーの普及を後押しする国の制度。
- * 東日本大震災を受けて2012年に導入。
- * 再生エネの電力を国が決めた固定価格で電力会社が買い取る。
- * 2021年度の電源に占める再生エネ比率は20.3%。
- * F I Tは再生エネが既存の電源と競争できる程度にコストが下がるまでのつなぎの制度。

(2023年1月31日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

